

クイックリファレンスガイド

1. バッテリーの充電



- MemoryPaqをコンピュータインタフェースに接続し、主電源につながっている充電器ジャックを挿入します。
- 充電はおおよそ1時間かかります(コンピュータインタフェースのLED表示で充電状態をチェックできます)。

2. MemoryPaqのリセット



- 手で挿入してから、MemoryPaq充電器ソケットから充電器ジャックを外します。
MemoryPaqと変換機インタフェースが接続された分の熱電対を使って取り付けられる際、手動リセットは5秒間のデフォルトサンプリング間隔を選択し、ロギングを有効にします。

- PCリセット-実行に必要な条件を入力します。

サンプリング間隔

トリガモード(トリガなし=MP&TIが接続時にオートスタータ)

使用変換器タイプ

接続されたプローブ数

バッテリーステータスのチェック

メモリ計算器のチェック

ヘルプ(H)

を押すとリセットオプションに関する全詳細情報を得られます。

注意: 必要時には毎回の実行の前にMemoryPaqをリセットすることができます。さもなければ、MemoryPaqの設定は前回実行時のままです。PCにデータをダウンロード後、一旦MemoryPaqを変換機に接続すると、前回のリセット条件は自動的に元に戻ります。

3. コンポーネントの組み立て



- プローブを変換器インタフェースに挿入します。
- MemoryPaqを変換器インタフェースに接続し、MemoryPaq LEDの表示状態をチェックします。
- アセンブリを耐熱ケース内のヒートシンク中に入れます。
- 耐熱ケースのふたを堅く閉めます。

4. データ収集



- プローブをテストピースまたは製品に接続します。
- 全システムをオープンに通過させます。
- 出口でシステムを回収します。
- 耐熱ケースからローガーを取り出します。
- 安全な場所に耐熱ケースを置いて冷却します。

警告!
耐熱
手袋を着用
すること

5. データ転送



- MemoryPaqを切断してコンピュータインタフェースに挿入します。
- 「ローガーからダウンロード」を選択します。
- ソフトによってプロンプトされたら、プロセスファイル(実行のために作成された場合)を選択します。
- データファイルを保存します。
- 標準レポートを印刷します。

insight の主要な機能

software

バックファイルタブ
複数のファイルを同時に開く

トレランスカーブ

マウスズーム

距離軸

分割バー
ビューのリサイズ

オプション

注記

ゾーンマーカ

分析タブ

分析 (赤アラームマーカ有り)

プロフィールQA

パス

フェイル

プローブツールバー
オン/オフ切替

プローブイメージ

実行前にデータロガーをリセット

実行後にロガーからデータをPCにダウンロード

ダウンロードプラス

データダウンロード、プロセスファイル、データ自動保存及び自動印刷…
…ボタンを一度押すだけでできます。

ウィザード

各ウィザードはソフトの必要操作を一つ一つ案内してくれます。自信を持って、かつ気楽にアドバンストな特性機能を利用できます(ダウンロードプラスの設定など)。

insight software
Oven Tracker

- バックファイルを開く
過去の測定データをロード
- プロセスのセットアップ
プロセスファイルを読み込むまたは編集
- オープン、製品またはレシピのセットアップ
オープン、製品またはレシピを選択
- データロガーのリセット
プロファイル実行時のデータロガーをリセット
- データロガーをダウンロード
ロガーからデータをダウンロード
- ダウンロードプラスをセットアップ
ダウンロードプラスの動作をセットアップ
- 新規トレランスカーブ
新しいトレランスカーブを作成

- バックファイルを開く
- プロセスのセットアップ
- オープン、製品またはレシピのセットアップ
- データロガーのリセット
- データロガーのダウンロード
- ダウンロードプラスのセットアップ
- 新規トレランスカーブ

マウスの右クリック

マウスを右クリックすると多くの役立つ機能をスピーディーに呼び出すことができます。例えば、結果ファイルやトレランスカーブをオーバーレイして、効率的かつ簡単にオープンが時間と共に変化しているかを見ることができます。

- オプション(O)...
- オーバーレイ(Y)...
- オープンスターの調整(T)...
- ゾーン長さの調整(L)...
- プローブ整理の調整(S)...
- メモの追加(E)...
- 3Dグラフ(G)...
- コピー(C)...
- フルズームを表示(F) F5
- プロセスズームを表示(S) F6
- 保存済みズームの表示(Z)
- 保存済みズーム(L)...
- 保存済みズームに追加(A)
- ウィザード(W)...
- プロパティ(P)...

プロセスファイル

コーティングプロセス(オープン、レシピ、製品)を説明しているテンプレートファイルを作成します。ダウンロードしたデータに適用することで、プロフィールに完全な資料を提供し、プロセスを参照しながら十分なデータ解釈を行うことができます。

ファイルの設定を一回のみにしておくことで、毎回の実行の後にデータを再入力せずすみ、実行を更にスピーディーかつ便利に行えます。

プロセス設定

プロセス名: []

プロセス実行: []

オープン: Powder Oven

レシピ: POWDER

製品: Polyester Powder

分析オプション

フルレポート、グラフのみ、または生データなどの印刷情報を設定します。

分析オプション

各分析のために分析パラメータとアラーム条件をセットアップします。

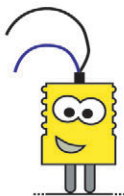
プローブ名 製品上のプローブの位置を表しています。

印刷

印刷オプションを使って、フルレポート、グラフのみ、または生データなどの印刷情報を設定します。フルレポート中に含める情報を選択します。ハードコピーを実際に印刷する前に印刷プレビューでレポートのフォーマットをチェックすることができます。

ヘルプボタン

どのダイアログでもヘルプボタンを押すと現在行っている操作に関連した情報が得られます。



分析… プロセスを改良するため、生データを役立つ情報に変換。

最大値 / 最小値

最大/最小温度

測定された製品上で各プローブ位置が達する最大温度と時間を計算します。

データ表示

温度データの表示

プロセス中のあらゆるポイントでの製品/空気温度を表示します。マウスで興味のあるトレースを左クリックして下さい。マウスでカーソルバーを適切な位置に移動し、時間と温度情報を読み取ります。必要時には生データを印刷もしくはエクスポートします。

温度での時間

「温度での時間」データ

製品が指定温度に達する時の時間と、製品がその温度またはそれ以上の温度にある滞留時間を計算します。オプションボタンで複数の閾値温度を選択することができます。

Datapaq値

Datapaq値

コーティング業者のキュア仕様書を参照し、キュアプロセスに役立つプロファイルグラフからのすべての温度データを使ってキュアインデックスを計算します。オプションボタンをクリックし、コーティング業者から得たキュアスケジュール情報を入力します。

受け入れ可能なDatapaq値の範囲(例えば90-140)を検索します。この範囲はご希望の物理QAテストをベースとしたコーティングキュアの品質を提供します。

理論上では、100前後であればパーフェクトキュア、大幅に100を下回ってればアンダーキュア、また大幅に100を上回っている場合はオーバーキュアを示しています。

Datapaq値を理想的なプロセスコントロールまたは最適化のインジケータとして使用します。Datapaq値が指定範囲内なら、プロセスがコントロール範囲内であることを示し、安心して生産を続けることができます。

パラメータ

追加(A)

削除(D)

	LOW		MID		HIGH		最小温度 (°C)	Max Temp (°C)
	<input checked="" type="checkbox"/> 以上の時間	温度	<input checked="" type="checkbox"/> 以上の時間	温度	<input checked="" type="checkbox"/> 以上の時間	温度		
1	<input checked="" type="checkbox"/>	190.0	<input checked="" type="checkbox"/>	200.0	<input checked="" type="checkbox"/>	210.0	160.0	220.0
		00:12:00		00:10:00		00:09:00		

- 最小値-キュア(架橋結合)開始時の温度
- 最大値-コーティングがダメージを受ける可能性がある際の温度。
- 3つのコーティングキュアスケジュール(低、中、高-「温度での時間」設定)

スロープ

スロープと上昇/下降

溶剤フラッシュオフ (flash off) や粉末の流出をコントロールし、それによって見映えをよくするには、スロープと上昇/下降時間分析機能を用いてプロセス内の加熱速度を計算します。

上昇/下降

ピーク差

ピーク差

オープン内の選択加熱 (differential heating) や冷熱点を識別するため、プローブ間のピーク差温度を決定します。

アラーム

アラーム

プロファイルデータをもとにトリガされたアラーム条件を分析します。こうすることでプロセスの失敗条件をスピーディーかつ簡単に分析することができます。

ステータス情報

用語集

MP=MemoryPaq ; CI=コンピュータインタフェース ; TI=変換器インタフェース ;
ホットデータ=まだ MemoryPaq からコンピュータにダウンロードされていないデータのこと。

MemoryPaq ディスプレイ

このディスプレイは MP が使うサンプリング間隔を表示します。ただし、これはエラーが発生していない場合、または MP が PC に通信中でない場合に限ります。

バッテリー節約のため、ディスプレイは各操作後 15 秒間のみついています。充電中もディスプレイはサンプリング間隔を表示します。



PC と通信中



五秒サンプリング間隔



五十秒サンプリング間隔



半秒サンプリング間隔



プログラムされたサンプリング間隔 (例えば 12.5 秒) は表示できません



エラー番号表示中のエラー状態

MemoryPaq LED

赤は 5 秒毎に点滅。

ホットデータを含んでいるか、メモリアル。

緑はサンプリング間隔で点滅。

ロギング (記録中)。

赤と緑はサンプリング間隔で一緒に点滅。

TI との接続待機中。

赤と緑はサンプリング間隔で交互に点滅。

時間または温度トリガの待機中。

黄は 5 秒毎に点滅。

バッテリー低下警告。

黄がオン。

充電中。

赤と緑は素早く 5 回点滅。

リセット成功。

緑は素早く 5 回点滅。

ダウンロード成功。

コンピュータインターフェース LED

黄がオン。

充電器は接続済みでオン状態。

黄と赤がオン。

MP 急速充電中。

黄と緑がオン。

MP フル充電。

エラー一覧表

意味



温度トリガ失敗。どのプローブもトリガに必要な温度に達していません。もしくは一つまたはそれ以上のプローブが既にトリガ温度を超えています。

措置

トリガが失敗しても、切断するまでは TI に接続してからのすべての指示値を MP は含んでいます。



時間トリガ失敗。設定された時間トリガの前に MP が TI と切断されたか、MP が TI に接続される前にトリガが終了しています。

トリガが失敗しても、切断するまでは TI に接続してからのすべての指示値を MP は含んでいます。



MP 内にデータがありません。指示値がない際にダウンロードが試行されました。

ダウンロード試行前に実行を行います。



MP はホットデータを含んでいます。MP はまだダウンロードされていない前回実行の際のデータを含んでいます。

ホットデータは上書きできません。データを PC にダウンロードするか、MP を PC からリセットします。



温度は温度トリガ値を超えています。少なくとも一つのプローブが温度トリガ値を超える温度を読み取っています。

すべてのプローブの温度をトリガ温度以下に下げるか、トリガ温度をより大きな値にリセットします。



MP はプログラム通りにログ (記録) できません。MP リセット時に設定したプローブ数と TI 上のプローブ数が異なっています。

ソフトを使い、MP を TI 上と同じプローブ数にリセットします。



重大な内部エラー。

重大な問題が発生しました。充電器ジャックで MP をリセットします。問題が解決しない場合は、Datapaq にご連絡下さい。



ヨーロッパとアジア

DATAPAQ Limited
Deanland House, 160 Cowley Road
Cambridge, CB4 0GU, UK
Tel: +44 (0)1223 423141
Fax: +44 (0)1223 423306
e-mail: sales@datapaq.co.uk

北米と南米

DATAPAQ, Inc.
187 Ballardvale Street
Wilmington, MA 01887 USA
Tel: +978 988 9000
Fax: +978 988 0666
e-mail: sales@datapaq.com



www.datapaq.com